

OSSTech Netatalk 2.0

インストールガイド 第 1.0 版



Copyright © 2009 オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2009 年 12 月 7 日

更新日: 2009 年 12 月 7 日

リビジョン: 1.0

目次

1. はじめに	1
1.1 本書の目的.....	1
1.2 前提条件.....	1
1.3 略語.....	1
2. Linux 版 Netatalk パッケージ	2
2.1 システム要件.....	2
2.1.1 ソフトウェア要件.....	2
2.1.2 ハードウェア要件.....	2
2.2 パッケージ構成.....	2
2.3 パッケージのインストール.....	2
2.3.1 準備.....	3
2.3.2 パッケージのインストール.....	3
3. Solaris 版 Netatalk パッケージ	4
3.1 システム要件.....	4
3.1.1 ソフトウェア要件.....	4
3.1.2 ハードウェア要件.....	4
3.2 パッケージ構成.....	4
3.3 パッケージのインストール.....	5
3.3.1 準備.....	5
3.3.2 Solaris 10 OS パッチの適用.....	5
3.3.3 RPM 環境のインストール.....	6
3.3.4 パッケージのインストール.....	6
4. Netatalk のファイル構成	7
4.1 コマンド、各種設定ファイルの配置.....	7
4.2 Netatalk サービスの制御.....	7
4.3 Netatalk サービスの自動起動の設定.....	8
4.4 オンラインマニュアルの参照.....	8
5. 注意事項	9
5.1 Samba による SMB/CIFS 共有フォルダとの共存.....	9
5.1.1 特殊ファイルへのアクセス拒否.....	9
5.1.2 ACL の無効化.....	9
5.2 SLP サーバーサービスの有効化 (Solaris).....	9
5.3 制限事項.....	10
6. 改版履歴	11

1. はじめに

1.1 本書の目的

本文書は、弊社提供の Netatalk ソフトウェアパッケージのインストールを実施するための手順書です。Netatalk のインストールやアップデートの際には、必ず本文書の内容を確認してから作業を実施してください。

本文書に関する記載内容について疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

1.2 前提条件

本書は、特に指示がない限り、以下のような条件を前提に記述しています。これと異なる場合は、適宜内容を読み替えるか、必要な作業を別途実施してください。

- 作業者が OS と関連ソフトウェアの管理や操作手順についての一般的な知識を有すること。
- OS と関連ソフトウェアの基本設定が適切になされていること。
- OS のセキュア OS 機能 (SELinux 等) やファイアウォール機能を無効にすること。
- 管理ユーザー root のシェル端末で作業すること。(作業ユーザーを指定している場合を除く)
- OSSTech 製品パッケージファイル群をインストール対象 OS 環境の /srv/osstech/software/RPMS ディレクトリ以下にコピーしておくこと。

1.3 略語

本書では必要に応じて以下のような略語を用います。

- 「Red Hat Enterprise Linux」を「RHEL」と表記します。
- 「オープンソース・ソリューション・テクノロジー」を「OSSTech」と表記します。

2. Linux 版 Netatalk パッケージ

2.1 システム要件

2.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Red Hat Enterprise Linux 5 / CentOS 5 (x86, x86-64)
- Red Hat Enterprise Linux 4 / CentOS 4 (x86, x86-64)

2.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU	
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。クライアント数等に依存)	
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech	1GB 以上
	データ、ログ: /var/opt/osstech	1GB 以上(推奨)

2.2 パッケージ構成

弊社提供の Netatalk パッケージは、以下のパッケージより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
 - osstech-daemontools
- Netatalk 関連パッケージ
 - osstech-netatalk
 - osstech-openslp
 - osstech-db4.8
 - osstech-db4.8-utils

2.3 パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、OS 付属の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

|| 2.3.1 準備

パッケージのインストールは、**root** ユーザーのみに許可されていますので、最初に **su** コマンドで **root** ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では `/srv/osstech/software/RPMS` に展開したことを前提として記述します。

|| 2.3.2 パッケージのインストール

`/srv/osstech/software/RPMS` に弊社提供の Samba パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls base  
osstech-base-2.0.0-37.el5.noarch.rpm  
osstech-daemontools-0.76-30.el5.i386.rpm  
...  
# ls netatalk  
...  
osstech-netatalk-2.0.5-8.0.el5.i386.rpm  
...
```

rpm コマンドを使用して、**Netatalk** 並びにその他必要なパッケージをインストールします。

```
# /bin/rpm -iv base/*.rpm netatalk/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

3. Solaris 版 Netatalk パッケージ

3.1 システム要件

|| 3.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Solaris 10 (SPARC)
- Solaris 10 (x86)

|| 3.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU
	Sun UltraSPARC II 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。クライアント数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech 1GB 以上
	データ、ログ: /var/opt/osstech 1GB 以上(推奨)

3.2 パッケージ構成

弊社が提供する Solaris 版ソフトウェアは以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
 - osstech-base
 - osstech-support
 - osstech-rpm
 - osstech-rpm-build
 - osstech-rpm-devel
 - osstech-rpm-libs
 - osstech-rpm-python
 - osstech-daemontools
 - osstech-logrotate
 - osstech-cronie

- Netatalk 関連パッケージ
 - osstech-netatalk
 - osstech-db4.8
 - osstech-db4.8-utils

3.3 パッケージのインストール

各パッケージのインストールは、弊社提供の rpm コマンドを用いて行います。以下の手順にしたがってパッケージのインストールを実施してください。

3.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。また、以下の説明では SPARC 版について述べていますが、x86 版の場合は、アーキテクチャとして「sparc」になっている箇所を「i386」に読み替えて、コマンドを実行してください。

3.3.2 Solaris 10 OS パッチの適用

showrev コマンドで OS パッチ 121606-02 以降 (SPARC の場合)、または 121607-02 以降 (x86 の場合) がシステムに適用されていることを確認します。Solaris 10 Update 4 (8/07)以降には標準で適用済みであるため、不要です。

パッチの確認: SPARC の場合

```
# showrev -p | egrep 121606  
Patch: 121606-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share, SUNWPython,  
SUNWPython-devel
```

パッチの確認: x86 の場合

```
# showrev -p | egrep 121607  
Patch: 121607-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share, SUNWPython,  
SUNWPython-devel
```

2008 年 11 月現在、パッチの最新版は以下の URL から取得することが可能です。このパッチのダウンロードは、Sun Service Plan の契約ユーザーのみに限定されています。

- SPARC 用
 - 121606-04: GNOME 2.6.0: Python patch
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121606-04-1>
- x86 用
 - 121607-04: GNOME 2.6.0: Python patch
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121607-04-1>

ダウンロードしたパッチは次の手順で適用します。

```
# unzip -q 121607-04.zip
# /usr/sbin/patchadd 121607-04
```

|| 3.3.3 RPM 環境のインストール

弊社の Solaris 版ソフトウェアパッケージは RPM 形式での提供となります。まず最初にブートストラップスクリプトを実行して RPM 環境をインストールします。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS
# ./bootstrap/osstech-bootstrap.ksh ./bootstrap
```

|| 3.3.4 パッケージのインストール

インストールされた rpm コマンドを使用して、Netatalk 並びにその他必要なパッケージをインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -iv base/*.rpm
# /opt/osstech/bin/rpm -iv netatalk/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

4. Netatalk のファイル構成

4.1 コマンド、各種設定ファイルの配置

弊社提供の Netatalk パッケージは/opt/osstech ディレクトリ配下にインストールされます。各コマンドなどのパスについては、下記を参照してください。

- Netatalk の主要なコマンド類
 - /opt/osstech/bin/apple_cp
 - リソースフォーク対応の cp, mv, rm コマンド
 - /opt/osstech/bin/apple_mv
 - /opt/osstech/bin/apple_rm
 - /opt/osstech/bin/asip-status.pl
 - AFP サーバーに機能を問い合わせるツール
- Netatalk の各種デーモン類
 - /opt/osstech/sbin/afpd
 - Apple ファイルサーバー機能 (AFP) を提供するデーモン
 - /opt/osstech/sbin/cnid_metad
 - afpd からの要求により cnid_dbd を起動するデーモン
 - /opt/osstech/sbin/cnid_dbd
 - CNID (Catalog Node ID) データベースを保守するデーモン
- Netatalk の設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/samba/netatalk.conf
 - /opt/osstech/etc/samba/afpd.conf
 - /opt/osstech/etc/samba/AppleVolumes.system
 - /opt/osstech/etc/samba/AppleVolumes.default

4.2 Netatalk サービスの制御

Netatalk の各種サービスを提供する afpd および cnid_metad デーモンの制御スクリプトとして、/etc/init.d/osstech-afpd および/etc/init.d/osstech-cnid_metad を用意してあります。これらを直接呼び出すこともできますが、通常は下記例のように service コマンドをご利用ください。

afpd、cnid_metad を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-afpd start
# /opt/osstech/sbin/service osstech-cnid_metad start
```

afpd、cnid_metad を停止する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-afpd stop
# /opt/osstech/sbin/service osstech-cnid_metad stop
```

afpd、cnid_metad を再起動する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/service osstech-afpd restart
# /opt/osstech/sbin/service osstech-cnid_metad restart
```

4.3 Netatalk サービスの自動起動の設定

OS のブートとシャットダウンに連動して自動的に各サービスが起動するようにする場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-afpd on
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-cnid_metad on
```

自動起動を無効にする場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-afpd off
# /opt/osstech/sbin/chkconfig osstech-cnid_metad off
```

4.4 オンラインマニュアルの参照

弊社パッケージ付属のオンラインマニュアルは /opt/osstech/share/man 以下にインストールされます。

マニュアルを参照するには、次のコマンドを実行してください。

```
$ /opt/osstech/bin/osstech-man [コマンド名など]
```

例えば、Netatalk の設定ファイル afpd.conf(5) のオンラインマニュアルを参照したい場合は、次のコマンドを実行してください。

```
$ /opt/osstech/bin/osstech-man afpd.conf
```

5. 注意事項

5.1 Samba による SMB/CIFS 共有フォルダとの共存

Netatalk で AFP 共有するフォルダ (ディレクトリ) を同時に Samba の SMB/CIFS の共有として利用する必要がある場合、いくつかの留意点があります。下記を解説を参考に、必要に応じて、Samba の設定ファイル `smb.conf` の `[global]` セクションあるいは任意の共有フォルダ定義セクションの設定変更を実施してください。

5.1.1 特殊ファイルへのアクセス拒否

Netatalk と Netatalk の AFP 共有フォルダにアクセスする Mac OS クライアントは、共有フォルダ内に特殊な隠しファイルやフォルダを作成します。Samba の SMB/CIFS 経由でアクセスしたときに、それらは隠れることなくユーザーの目に晒されてしまいます。

Samba で特定のファイルのアクセスを拒否するには `veto files` と `delete veto files` パラメーターを利用します。

`/opt/osstech/etc/samba/smb.conf`: AFP / Mac OS 特殊ファイルへのアクセス拒否

[任意のセクション]

```
veto files = /.Apple*/.DS_Store/.TemporaryItems/.VolumeIcon.icns/.FBC*/Network Trash Folder/Temporary  
Items/TheFindByContentFolder/TheVolumeSettingsFolder/
```

```
delete veto files = yes
```

5.1.2 ACL の無効化

現在の Netatalk はファイル ACL (アクセス制御リスト) に対応していません。ACL が付与されたファイルであっても共有することは可能ですが、ACL の参照や変更はできません。

共有フォルダのファイルに ACL が付いたり変更されることが不都合である場合は、Samba の共有フォルダ定義で ACL を無効にすることを検討する必要があります。

`/opt/osstech/etc/samba/smb.conf`: ACL の無効化

[任意のセクション]

```
nt acl support = no
```

5.2 SLP サーバーサービスの有効化 (Solaris)

Netatalk は SLP (Service Location Protocol) サーバーサービスを利用して、自身のサービスを広告することができます。SLP に対応している Mac OS 8.5 以降と Max OS X 10.0 ~ 10.4 以前 (10.5 以降は未対応) であれば、SLP を介して Netatalk のサービスを容易にみつけることができます。

Solaris 10 には SLP サーバーサービスパッケージ (SUNWslpr, SUNWslpu) が標準で付属しています。以下にサービスを有効化する手順を紹介します。

SLP サーバーサービスの設定ファイルを用意します。設定変更は不要です。

```
# cp /etc/inet/slp.conf.example /etc/inet/slp.conf
```

svcadm で SLP サーバーサービスを有効化します。

```
# svcadm enable svc:/network/slp:default
```

5.3 制限事項

弊社 Netatalk パッケージには以下の制限があります。

- AppleTalk をサポートしていません。この制限は以下を含みます:
 - AFP (Apple Filing Protocol) over AppleTalk はサポートしていません。AFP over TCP/IP のみをサポートしています。
 - AppleTalk プリンタサーバー機能 (papd) はサポートしていません。
- AFP はファイルの ACL (アクセス制御リスト) と拡張属性をサポートしていません。
- Bonjour (Zeroconf) をサポートしていません。SLP (Service Location Protocol) のみをサポートしています。

6. 改版履歴

- 2009-12-05 リビジョン 1.0
 - 初版
 - Netatalk 2.0.5 for Solaris 対応